

U.S. Indicators

発表日: 2023 年 2 月 7 日(火)

米国 製造業の調整幅拡大(23 年 1 月ISM製造)

～23 年 4-6 月期にかけて米製造業の縮小や財価格の下落は継続する見込み～

第一生命経済研究所 経済調査部

主任エコノミスト 桂畑 誠治(Tel:050-5474-7493)

23 年 1 月の I S M製造業景気指数(季節調整値)は、47.4(前月 48.4)と 1.0%p 低下し、市場予想の 48.0(筆者予想 47.8)を下回った。入荷遅延が上昇した一方、景気の先行き懸念により新規受注、生産、雇用、在庫が低下したことで、I S M製造業景気指数は低下した。

拡大縮小の分岐点である 50 を 3 カ月連続で下回るなかで低下しており、製造業部門の縮小幅の拡大を示している。雇用、在庫が 50 台を維持した一方、景気減速に対する懸念を背景に新規受注が 50 を下回り続ける中、在庫の積み上がりで生産も 50 を 2 カ月連続下回ったほか、供給制約の改善継続で入荷遅延が 50 を下回っていることにより、I S M製造業景気指数は米製造業部門の縮小を示す水準に止まった。このような中、インフレの動向を示す仕入価格指数は上昇に転じたが、50 を下回っており、コスト上昇圧力が緩和している。

1 月の構成項目別の変化では、入荷遅延が上昇した一方、新規受注、生産、雇用、在庫が低下した。構成項目別の総合指数への寄与度をみると、入荷遅延が前月比+0.10%pの押し上げ寄与となった一方、新規受注が前月比▲0.52%p、在庫が前月比▲0.42%p、生産が前月比▲0.12%p、雇用が前月比▲0.04%pの押し下げ寄与となった。

サブ項目では、輸出受注D Iが49.4(前月46.2)と上昇したが50を下回っており、世界経済の減速を受けた輸出の減少持続が示された。輸入D Iも47.8(前月45.1)と上昇したが50を下回っており、輸入の縮小継続を示した。

他方、仕入価格指数は商品市況の上昇によって44.5(前月39.4)と上昇したが、50を下回っており、インフレ圧力が弱まっていることを示した。

1 月の企業からの報告では、需要が強いうえ、サプライチェーンの改善、コスト増加圧力の緩和を示す業種がある一方、需要が強くサプライチェーンの問題を抱えている業種があった。

コンピューター・電子機器は事業が依然好調な一方、一部の製品価格が軟化し始めたほか、リードタイムが改善していると報告した。また、化学は、売上が予想をやや上回っているなか、今年はこれまで供給の混乱がはるかに少なく、大部分の製品でコスト上昇圧力が緩和していると指摘した。

一方、一般機械は、強力で大規模な需要が部品の需要を押し上げており、継続的な生産能力の制約を生み出していると報告した。また、輸送機器は、海外のサプライヤーからの輸送遅れ、重要な電子機器、ガスケット、シーラント、特殊鋼のリードタイムが2倍になるなどサプライチェーンの問題によって生産スケジュールに問題が生じたと報告した。

需要の弱い業種をみると、食品・飲料・タバコは、年初の売上が予想通り落ち込んだと報告したほか、電気設備・部品は、一部の事業セグメントが世界的な需要鈍化を示し、多くの材料がリードタイムの改善とコスト低下を示したと指摘した。また、加工金属は、景気後退に備えて需要が急激に減少し、客の在庫と同様に自社の在庫水準も高くなっており、これまでのところ2023年上半期の見通しは

非常に弱いと報告した。さらに、その他製造は、顧客がサプライヤーの値下げを超える値下げを非常に積極的に求めてくると指摘。非鉄は、産業建設が強い一方、商業不動産は鈍化していると報告。一次金属は過去2週間で新規受注が減少したと指摘。

1月は、全18業種のうちその他製造業、輸送機器の2業種の拡大にとどまり、12月の2業種（下線は拡大・縮小が2カ月以上続いたことを示す）にとどまった。主要6業種では、輸送機器の1業種が緩やかに成長した。印刷・関連サポート活動は前月から変わらずとなった。

一方、縮小した業種は、木材製品、繊維、紙製品、家具・同関連、アパレル・皮革、プラスチック・ゴム、電気設備・部品、一次金属、非鉄、加工金属、化学製品、一般機械、食品・飲料・タバコ、石油・石炭、コンピューター・電子機器の15業種に増加した（12月13業種）。

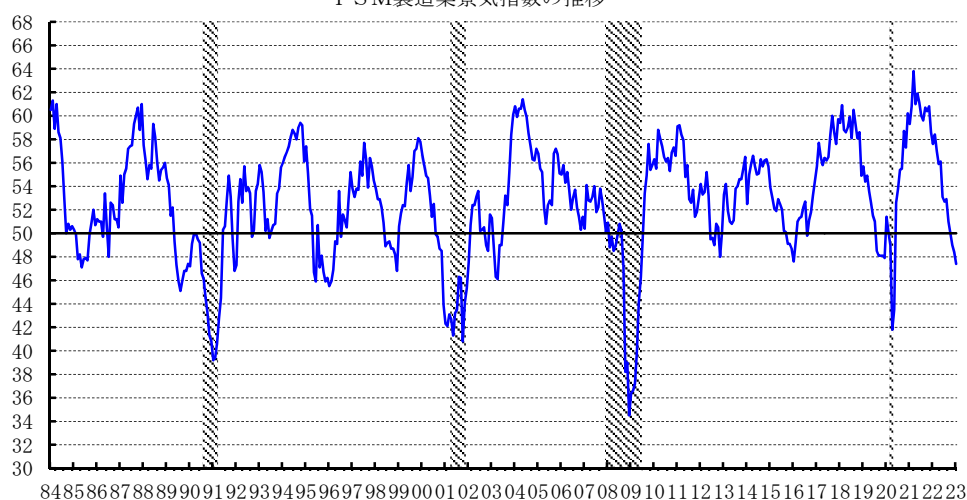
先行きに関して、新規受注が42.5（前月45.1）と前月からさらに低下したほか、受注残が43.4（前月41.4）と低い水準にとどまっており、4－6月期にかけて製造業部門の縮小や財価格の下落が続くと予想される。

I S M製造業景気指数

	総合	新規受注	生産	雇用	在庫	入荷遅延	受注残	仕入価格	輸出受注	輸入
22/01	57.6	58.6	57.2	53.8	53.6	64.6	56.4	76.1	53.7	55.1
22/02	58.4	61.2	57.9	52.7	54.1	66.1	65.0	75.6	57.1	55.4
22/03	57.0	54.3	55.1	55.3	54.8	65.4	60.0	87.1	53.2	51.8
22/04	55.9	53.8	54.4	51.2	52.7	67.2	56.0	84.6	52.7	51.4
22/05	56.1	54.9	54.7	50.2	55.0	65.7	58.7	82.2	52.9	48.7
22/06	53.1	50.0	54.4	48.1	55.7	57.3	53.2	78.5	50.7	50.7
22/07	52.7	48.6	53.3	49.8	56.6	55.2	51.3	60.0	52.6	54.4
22/08	52.9	50.4	51.1	54.2	53.8	55.1	53.0	52.5	49.4	52.5
22/09	51.0	47.3	51.0	49.3	55.1	52.4	50.9	51.7	47.8	52.6
22/10	50.0	48.2	51.9	49.9	53.0	46.8	45.3	46.6	46.5	50.8
22/11	49.0	46.8	50.9	48.9	51.1	47.2	40.0	43.0	48.4	46.6
22/12	48.4	45.1	48.6	50.8	52.3	45.1	41.4	39.4	46.2	45.1
23/01	47.4	42.5	48.0	50.6	50.2	45.6	43.4	44.5	49.4	47.8

（出所）I S M : the Institute for Supply Management

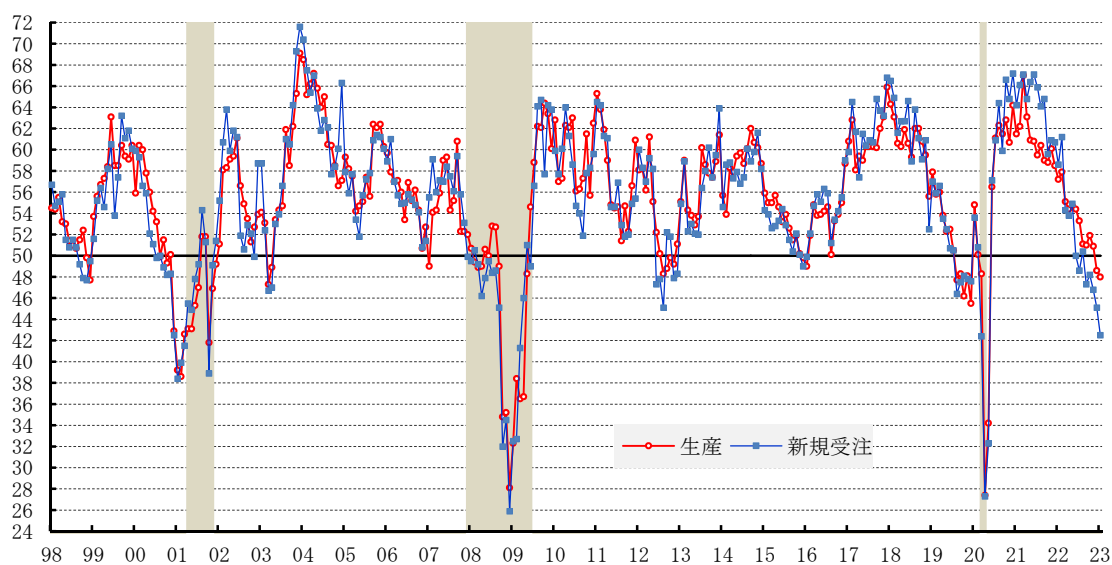
I S M製造業景気指数の推移



（出所）I S M

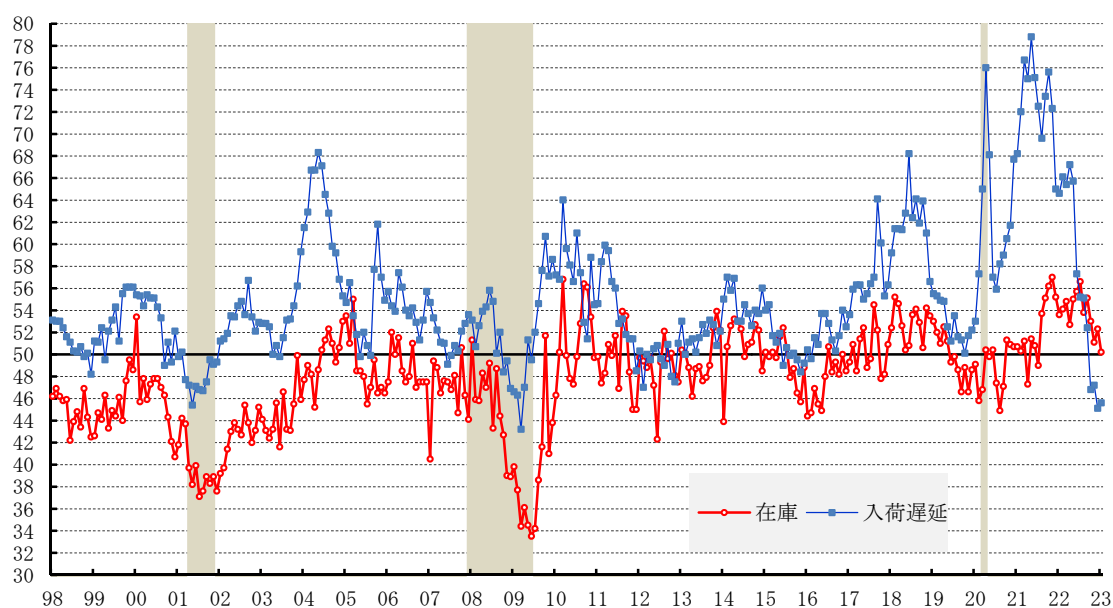
（注）シャドー部は景気後退期。

ISM景気指数の推移



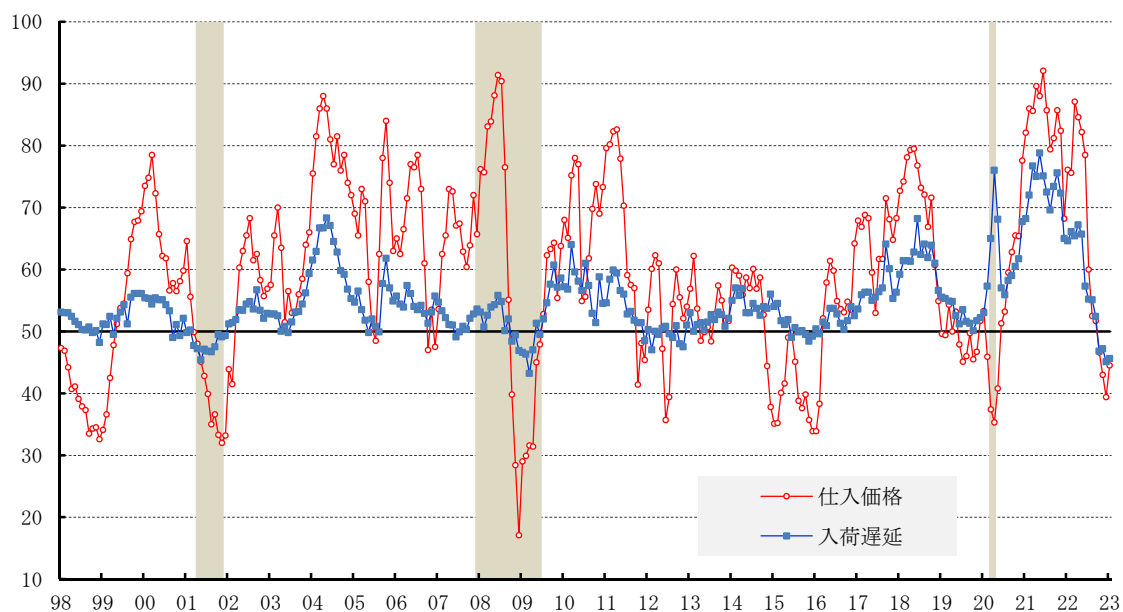
(出所) I S M (注) シャドー部は景気後退期

ISM景気指数の推移



(出所) I S M (注) シャドー部は景気後退期

ISM景気指数の推移



(出所) I S M (注) シャドー部は景気後退期

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見通しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

